

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
身体表現Ⅱ Physical Education of Young Children Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種))	児童フィールド以外の学生は人数の制限がある
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育内容健康、子どもの保健Ⅰ・Ⅱ 発育発達論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
幼稚園教諭二種免許、保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
山内健次	本館2階	木曜・金曜 9:00～16:00 (授業時間中は除く)		授業中に指示します
授業の概要				
現代園児の体力向上には、身体活動量の増加がキーポイントとなる。園児の場合身体活動量は歩数で評価されることが多い。現代園児の一日の歩数は、屋内遊びの増加が大きな影響を及ぼし減少傾向にある。この講義では、①園児が楽しくまたやってみたいと感じる運動遊びを、多数紹介しそれが身体活動量の増加につなげる手段になることへの理解 ②保育者・指導者自身がその楽しさをうまく伝えることのできる技能の習得 ③園児との運動遊びを通したコミュニケーションのとりかたなどを学ぶ。				
授業の目標				
①運動発達の順序を知り、年齢の違いによる運動動作の違いが理解できるようにする。 ②自分を保育者または指導者の立場に置き換え、受講者が楽しいと思えるような授業を作り上げることができるようにする。 ③保育者や指導者は、園児に多種多様な運動遊び種目を提供するのみならず、自分自身が正確にしその見本を示せることができるようにする。				
授業の方法				
実技指導、学生同士による模擬指導(指導者と園児役になる)、保育現場での事例報告				
学習の成果(学習成果)				
①多くの種目についての運動遊びが指導できる。 ②安全面に配慮した運動遊びが行えるよう危機管理ができる。 ③園児にからだを動かすことの楽しさを伝えることができる。 ④運動会を計画し実施する能力を実践することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(受講にあたっての服装や態度と注意点、授業内容の確認、成績評価方法)身体表現Ⅰで学んだ内容のふり返りと幼児のコーディネーショントレーニング②			
第2回目	ボールを使った運動遊び指導①			
第3回目	ボールを使った運動遊び指導② ボールを使った体操			
第4回目	鉄棒を使った運動遊び指導			
第5回目	マットを使った運動遊び指導①(年齢に応じたマット遊びの実際)			
第6回目	リズム体操①			

第7回目	リズム体操②		
第8回目	リズム体操③と手具を使った体操①(鳴子・リボン)		
第9回目	乳幼児の救急法 乳幼児への心肺蘇生法・気道内異物の除去		
第10回目	長なわを使った運動遊び指導 ダブルダッチ		
第11回目	長なわを使った運動遊び指導 長なわを使った伝承遊び		
第12回目	短なわを使った運動遊び指導 前回旋順跳びの指導プロセス		
第13回目	バルーンを使った集団演技指導		
第14回目	棒を使った運動遊び指導と手具を使った体操②(棒)と 鉄棒・短なわの実技試験		
第15回目	鉄棒・短なわの技術説明		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度	60%		・協調性をもって授業に臨む姿勢。 ・技能の習得に対して前向きな姿勢。 ・用具の準備・片付けなどに積極的に参加する。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
試験	30%		実技試験＝鉄棒(なかぬきまわり・足掛けあがり・逆あがり)、短なわ(交差とび・あやとび・応用交差とび・二重とび)
発表内容(態度含む)			
その他	10%		スポーツを行うに適した、服装やシューズが用意されている。
教科書と参考図書			
教科書：使用しない 参考図書：「幼児体育教本」(同文書院)、「0～5歳児の運動あそび指導百科」(ひかりのくに)「キンダーコーディネーション」(全国書籍出版)、「園児いきいき体育あそび200選」(かもがわ出版)			
履修上の留意点・ルール			
・指輪、ピアス等の装飾品は授業前にとること ・体育館への飲食物と携帯電話の持ち込みは禁止 ・協調性ある態度で臨むこと			